

### 13 即時義歯を兼ねた複製義歯の一製作法 —抜歯前の形態を忠実に再現するために—

○光村香里<sup>1</sup>, 飛田 滋<sup>1,2</sup>, 佐藤浩子<sup>1</sup>, 松本麻美<sup>1</sup>

<sup>1</sup>明倫短期大学 附属歯科診療所, <sup>2</sup>明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : 歯科訪問診療, 複製義歯, 即時義歯, 側貌・正貌の回復

#### はじめに

当診療所では老人介護施設などで歯科訪問診療を行っている。訪問先での医療行為には器材・設備に制限があり、十分な処置を施すことが難しい状況にしばしば遭遇する。今回はその限られた環境の中、症例を通してより高精度の補綴物製作法を検討したので報告する。

#### 症例の概要

金属床義歯を使用している施設入所中の患者様において、不適合ブリッジ辺縁が物理的刺激となったため頬小帯に潰瘍を形成し、ブリッジ内部に埋入していた。このため早急に④③②①—①②③ブリッジ除去および支台歯抜歯が必要となった。現在使用中の金属床義歯の装着感とブリッジの形態を非常に好んでいたが、ブリッジ除去後には義歯の使用が不可能になることが予想され、また患者様の都合により短期間で補綴物を作る必要があった。そこで、既存の金属床義歯・ブリッジを利用した複製義歯製作を試みた。

抜歯されたブリッジの内面に残ったメタルコア・歯根を取り除き、再び義歯に固定した状態で寒天・アルジネート連合印象法による補綴装置の取込印象を行い、作業模型を製作した。ブリッジ周辺の床部を歯肉形成し、金属床の口蓋部（約0.5mm）にパラフィンワックス1枚（約1.5mm）を張り、完成義歯口蓋部の機械的強度向上を図った。義歯後縁部にスプルー・ベントを取り付け、シリコーン印象材（パテタイプ）を用いて人工歯部と研磨面部のコア採得を行った。次に人工歯部を、このコアを用いて歯冠色常温重合レジンにて製作した。取り込んだ補綴装置を模型から外し流蠟後、コア内部に人工歯を戻し、コアと作業模型を固定した。

スプルー部より歯肉色常温重合レジンを流し込み、加圧釜にて重合後、従来の方法で研磨を行い、複製義歯完成とした（図1）。その後、完成義歯に対し施設でティッシュコンディショニングを行った。

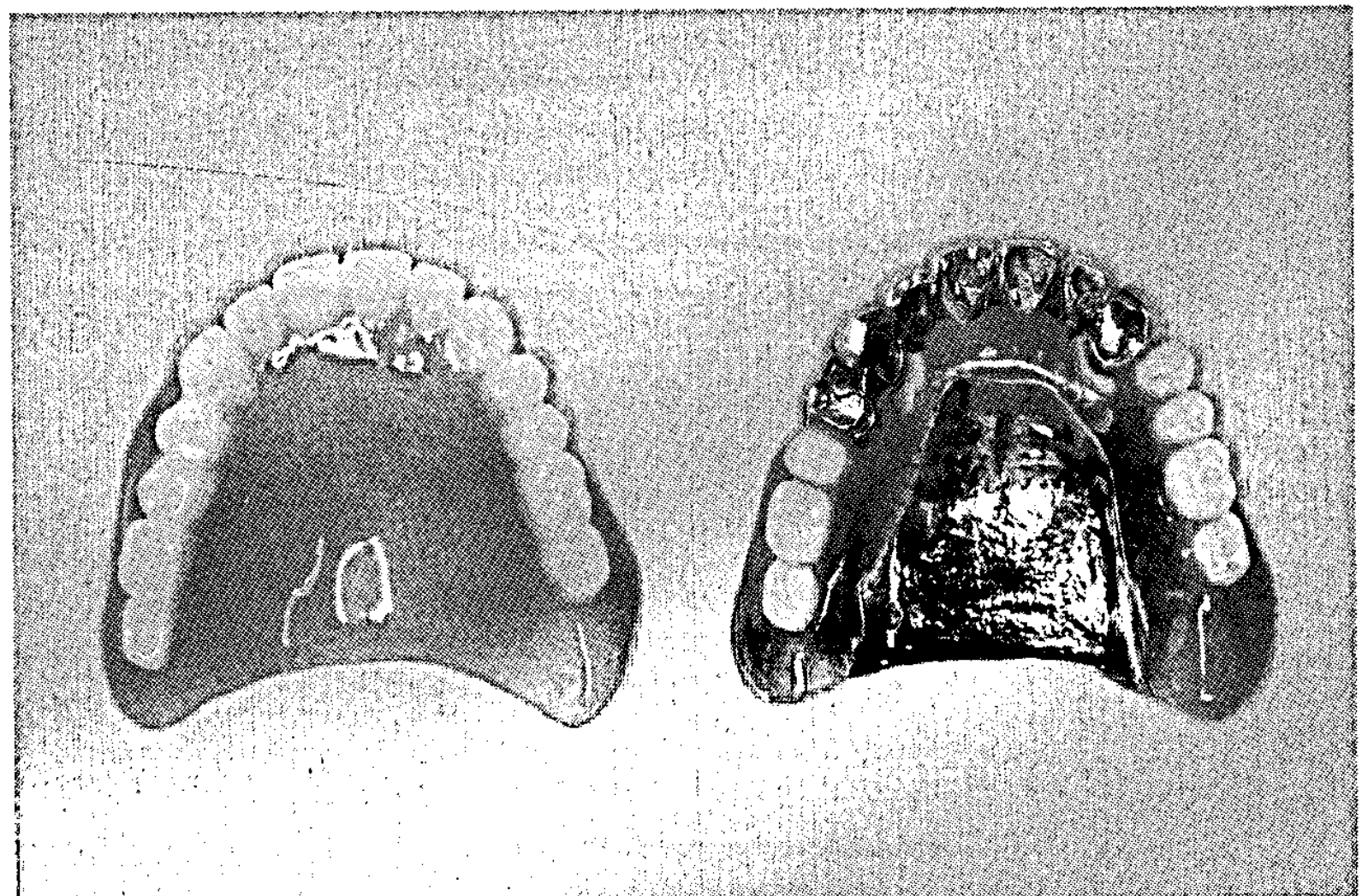


図1. 複製義歯（左）と旧義歯、ブリッジ（右）

#### 考 察

複製義歯により抜歯前の状態とほぼ同じ側貌、正貌の回復と摂取可能な咬合、前歯部の自然な色調と形態を有している事に患者様は満足感を得られていた。今後、抜歯部の歯肉安定を待って旧義歯修理を行う予定である。隆起した上唇粘膜部は物理的刺激からの解放により縮小傾向である。なお、本症例は骨粗鬆症によるビスホスホネート製剤内服使用中であり、十分な経過観察と歯肉安定を待機する必要がある。

#### まとめ

歯科訪問診療という様々な制約がある中で、患者様の期待に応えるべく歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士間の連携（チーム歯科医療）と技工上の創意工夫が重要であることがわかった。